平成30年度　長野県岡谷東高等学校評価表（最終評価）

51長野県岡谷東高等学校

学校教育目標	総合評価
人間尊重の精神に徹し、自ら考える力と、創造的な知性、及び実践力を養い、調和のとれた人間の育成を目ざす。 『自主・自律の精神に徹する』 『真摯な態度で自己目標の実現に努める』	・平成31年度入学者選抜において、前期選抜、後期選抜とも志願倍率が県内全日制普通科で最も高い倍率となった。このことは、中学生が岡谷東高校で学びたい思ってくれていることのあらわれであるとともに、自分が通う学校を誇りに思うことにつながっていると考えられる。この状況について検証する中で、学ぶ楽しさを実感できる生徒の増加を目指すなど、良い面をさらに発展させたい。 ・生徒の学校満足度調査「あなたは、本校の学校生活に満足していますか？」の結果、４「だいたいそう思う」、または５「大いにそう思う」と回答した生徒を合わせると平成28、29年度の33%から44%へと大幅に増加した。このことから、生徒たちが安心して、充実した学校生活を送れていることが伺え、評価できる。 ・幅の広い進路希望に対応した指導を行うことができている。今後はさらに生徒や保護者、また、地域や社会のニーズに寄り添った指導の検討を望む。 ・防災訓練を工夫して実施したことは評価できる。訓練のための訓練ではなく、訓練をとおして課題を抽出できた。住んでいる地域毎に集まり、防災マップを見ながら危険地域などを確認したことは、地域の安全、日常や身の回りを見直す良い機会となった。
中長期的目標	
学校教育目標に則り、地域から信頼され、地域に貢献できる人材の育成を目指す。 1　地域に開かれた学校づくりを進め、地域の信頼を高める。 2　自らが学ぶ学校を誇りとし、自己目標の実現に向かい主体的に取り組む生徒を育成する。 3　全人教育を進め、クラブ活動など生徒の自主活動をさらに活性化することを目指す。	

今年の重点目標	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策
1　生徒一人ひとりが自己を見つめ、力を発揮できる学校づくり 2　学ぶ楽しさを実感し進路の希望を実現できる学校づくり 3　いじめや体罰のない、安全・安心な学校づくり 4　生徒の人権を尊重し、保護者・地域に信頼される学校づくり	公開授業に多くの中学生をはじめとした参加者を迎えることができた。生徒と教職員の距離が近くて良い関係性が見受けられるという意見を多くいただいた。授業においては、主体的・対話的で深い学びになるようさらなる工夫が不可欠である。	自ら進んで学習をする生徒が増加している。電子黒板やタブレットを用いた調べ学習などICT機器を活用することで、生徒が受け身でなく、主体として授業に参加し、進んで学習に取り組む授業デザインを工夫したい。自ら「考える時間」が大幅に増えるよう授業改善を推進する。

《教育活動領域》

対象	対応重点項目	評価項目	評価の観点	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策
教育課程・学習指導	1 2	コースの特色に応じた取り組み	・生徒一人ひとりの進路実現に向けた系・講座の選択をさせる指導を行い、系別講座編成に対してスムーズな編成と工夫ができたか。 ・コースの特色を活かした進路実現を行える少人数講座や授業内容の工夫を行うことができたか。	・進路講話等による生徒の進路意識の形成に努め、生徒との面談を通じた系・講座の選択により、進路別講座を展開することができた。また教育課程の変更により、生徒の進学に対応にすることができたが、今後開設講座の移動・変更について、見直しも含めて取り組んでいく必要がある。 ・福祉、保育、スポーツなどの授業内容において、進路に関わる側面を提示することにより、進路実現へ関わらせることができた。少人数講座による授業展開はできているが、今後履修人数と講座の開講について検討していく必要がある。	・教育課程の編成に関して、継続的に検討するとともに、大学入試制度改革や次期学習指導要領の改訂に伴った新教育課程の編成への着手。 ・「探究的な学び」の視点を踏まえて、コースのあり方とその特色に応じた授業内容の研究と深化。
	1 2	高大連携事業の推進	・信州豊南短期大学、松本大学との高大連携事業において、関係する分掌・教科で連携した計画・業務遂行をスムーズに行い、内容をより充実させることができたか。 ・高大連携事業の成果を、学習成果発表会を通じて発信することができたか。	・高大連携委員会がまとめ役となり、教科間で連携して事業を展開することができた。連携事業の活発化により参加する生徒が多くなっているが、通常授業の公欠が増えることとなり、課題となっている。 ・1・2年生全生徒が参観する形で学習成果発表会を実施できたが、全学年生徒の参加や校外への発信などの工夫を行う必要がある。	・通常授業への影響を減らすための連携と日程調整を行っていく。 ・学習成果発表会を全生徒参加にするとともに、保護者・地域の方が参加できるように発信の工夫する。
	1 2 4	授業の改善と工夫	・「丁寧でわかりやすい授業」を目指し、生徒の学習意欲を喚起できるような授業内容の工夫を行うことができたか。 ・「探究的な学び」に関する研修等を実施し、教師間の授業公開・研修を通して、授業改善に向けた努力ができたか。 ・各学年・各クラス・各講座等での情報交換会を行うことで生徒理解を深め、個々の授業展開を考える契機にすることができたか。	・新たに導入された電子黒板やタブレット端末などのICT機器を有効に活用して、わかりやすく、学習意欲を喚起する授業を行うことができた。 ・他校の実践発表や研修に参加した教員を中心に、「探究的な学び」に向けた準備へ着手し始めた。今後校内での研修会等、全ての教員が取り組めるための手立てが必要である。 ・学年会での情報共有により、生徒理解を踏まえた授業を個々に展開することができた。	・全職員が改善と工夫の意識を高められるよう全体的な協議を深めるとともに、ICT機器の利用に関する研修の工夫を図り、有効的な活用を推しひろめる。 ・「総合的な探究の時間」導入に向けて、「探究的な学び」に関して研修を通して理解を高め、実践へとつなげていく。 ・各係と連携し、生徒個々の特性に応じた教科指導のあり方を構築する。
	1 2 4	基礎学力の補充と進学希望者の進学意欲を向上させる取り組み	・進路・学習係の取り組みを中心に、本校の生徒の状況を理解して、基礎学力の補充について具体的に取り組むことができたか。 ・特に進学希望者に対して、進学補習を活用して進学意欲の向上を図ることができたか。	・進路実現に向けた小論文対策や面接指導を行うとともに、学力補充の補習を実施することができた。しかしながら、生徒の学習状況をより深く分析した上で、学力定着に向けた手立てを構築する必要がある。 ・進学補習への参加者は増加し、また継続的に取り組んでおり、進学意欲を向上させることができたと言える。	・学力の定着に向けて、教科間の連携や生徒の学習プロセスを理解した補習等のあり方を考える必要がある。 ・進学希望生徒の進路実現へとつながる補習への転換。
進路指導	1 2 4	進路意識の涵養	・早め早めの対策を立てることによって、1.2学年の生徒の進路意識を高めることができたか。 ・保護者と最新の情報を共有できたか。 ・進路指導室を生徒が有効活用できる場として整備できたか。	・年度当初に総合学習やLHRの年間計画を立てることによって、系統立てた指導ができた。しかしながら、「やらされている」感のある生徒がいた。 ・懇談会では、進路指導室からも資料を提供（プリント・冊子）を提供し、保護者との情報の共有に努めた。就職の情報は質・量ともに不足していた。 ・生徒が気軽に進路指導室を訪れることのできる雰囲気をつくるとともに、常に整理整頓を心がけたが、資料の場所を探せぬ生徒がいた。	・ガイダンスや講演会を行う際に、目的を事前に伝え、より主体的な参加を目指す。 ・就職に関する情報提供も考えたい。 ・書籍や資料の配置をより工夫し、閲覧しやすいように改善したい。
	1 2	キャリア教育を軸にした総合的な学習の時間の在り方について	・職業調べ学習や「ひろがれわたし」が職業理解を効果的に高めたか。 ・外部機関との連携が職業観の育成につながったか。 ・3学年の「総合的な学習の時間」が、生徒の進路実現に向けて効果的な形で運営されたか。	・職業調べ学習、「ひろがれわたし」については、発表の場を設定し、調べるだけにとどまらない事後指導ができた。 ・ハローワークや外部業者と連携し、適切な時期に指導ができた。 ・3学年の「総合的な学習の時間」について、毎週の学年会で進捗状況や次時の予定などを確認しながら効率的に運営できた。	・「ひろがれわたし」では、多くの生徒が第1希望の事業所に参加できるよう、新規の依頼が必要である。 ・競争原理がはたらくように、複数社の外部業者と連絡を取っていきたい。 ・内定後や合格後の生徒の指導に困難さを感じる。有意義な時間を過ごせるようにすべきである。
	1 2	進路実現に向けた入試・就職試験への対応	・生徒のニーズに応えた補習や模擬試験を展開できたか。 ・小論文や面接の対策が十分になされたか。 ・一般入試に臨む生徒への支援が十分になされたか。	・希望者補習や指定者補習を計画的に行ってきた。模試については、より多くの生徒が主体的に受験すべきであった。 ・3学年の生徒について、志望理由書・小論文の指導や面接練習を、多くの先生方にご協力頂きながら、実施することができた。しかしながら、生徒の事前準備が不十分であった。 ・一般入試に臨む生徒に、もっと模試を勧めるべきであった。その点も含めて支援は十分であったとは言えない。	・補習について、生徒会活動やクラブ活動との折り合いがつかずに苦しんでいる生徒が見られるので、学校全体として考えるべきである。模試については、年度当初に年間計画を生徒に示せるようにしたい。 ・小論文指導、面接練習ともに、特定の職員のもとに生徒が集中することがあるため、平準化できる方法を考えたい。また、もっと早くから指導できるように、生徒に促したい。 ・時間割上の配慮をしたい。

対象	対応重点項目	評価項目	評価の観点	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策
生徒指導	1 3 4	対話の重視による生徒理解と家庭との連携	・生徒との対話が的確にされ、生徒理解の意識を持って指導ができているか。 ・ガイドラインの周知や生徒への指導について、保護者の理解や協力は得られたか。	・日頃の声掛け等により一定の人間関係を構築することでスムーズな対話ができるように努めた。 ・生徒指導に関するガイドライン等について丁寧な説明を心掛けているが、規則等の周知に不十分な部分もありさらに工夫が必要である。	・指導における「対話と説得」の基本的精神は次年度以降も維持したい。 ・ガイドラインや規則について保護者の方に周知する方法を工夫したい。
	1 2	学習習慣・学習環境の整備と確立	・「学習規律」等の指導により生徒が力を発揮できる学習環境を整えることはできたか。	・学習環境については生徒の意識が高くなってきており、問題となることは少ない。	・授業に対する意識を高く持つことにより、学習環境の大切さを生徒自らが気付けるような指導を工夫する。
	2 3 4	身だしなみ等、校内規則に対する規範意識の醸成と確立	・身だしなみや校内の規則について、職員が統一した意識で指導することができたか。 ・いじめのない学校作りができているか。 ・自転車事故や盗難等、生徒にかかわる事例に対して効果的な指導はできたか。	・身だしなみについては定期的な検査や呼びかけにより違反者は減少している ・「いじめ」については明らかな加害者が存在して反省指導を行うような事例は無かった。しかし、SNSによる友人関係のトラブル等は存在し今後も注視が必要である。 ・5月にスタントを使った自転車の講習会を開催した。事故が減少していることから、交通安全に一定の効果はあったと思われる。また、現金盗難は1件のみで昨年より減少している。	・事故や盗難等は気を緩めることなく恒常的な注意喚起が必要である。 ・引き続き学年や職員によって差がないよう統一した指導と、多様な生徒に対する柔軟な指導ができる体制を整えたい。
特別支援教育	1 2	特別支援教育の確立	・教員間の生徒情報共有の策が定着し、必要に応じた早期対応ができたか。 ・対象生徒への適切な支援が行えたか。 ・家庭、医療機関、地域の支援センターなどと連携し、支援を進めることができたか。 ・職員研修を行い、合理的配慮の合意形成を図る手立てを知り、支援体制づくり等に役立てたか。	・生徒情報の共有については、日常的な活用には至らなかった。 ・学年会、教科担当者会等で、職員間の情報共有を行うことができた。 ・職員研修では、合理的配慮について理解を深めることができた。	・生徒情報の共有について、有効な手段を検討する。 ・生徒理解をさらに進めるため、外部専門機関の定期的な活用を図る。
生徒会	1	生徒の主体的活動の促進	・生徒会スローガン"Be Active"に基づき、各組織が能動的かつ計画的に活動を展開することができたか。 ・文化祭において生徒が主体的に計画・運営し、職員が適切な助言・指導を行えたか。 ・クラブ活動の活性化をめざし、心身の成長を育むクラブ活動が行えたか。 ・PTS協議会および全校PTSの企画・運営を通じ、生徒の成長を促すことができたか。 ・社会貢献に繋がる活動としてエコマネージメントへの取り組みを進めることができたか。	・各行事ごと生徒が自ら考え協力し合いながら計画運営する姿が見られた。 ・新しいことにトライしようとする姿勢が多くの生徒会役員に見られる。職員も適切な助言・指導を行っている。 ・運動部、文化部ともに日常活動の充実を図るとともに、大会などで成果を上げている。 ・討論を通して互いの認識を深めることができた。より多くの参加を促すために議事録の配布などを行った。妥当なテーマ設定が依然として課題である。 ・継続してエコキャップ回収活動を行うことができた。	・各委員会の業務分担の精選と、より活発な活動がなされるよう各委員会の3役と顧問がより連携を深めていけるようにしたい。 ・クラブ監査のより良い在り方を模索したい。 ・全校PTSの運営方法の改善と、より多くの生徒、教員、保護者へ年2回のPTS協議会へ参加するよう促していきたい。
	1 4	地域交流・ボランティア活動の奨励	・花田養護学校との交流を充実させることができたか。 ・地域交流と各種ボランティアの奨励と活動の充実ができたか。	・例年以上に多くの生徒が参加してくれた。 ・諏訪湖周清掃、赤い羽根共同募金など、岡谷市や地域の各種団体と連携して活動できた。 ・AOHSにおいて市役所と連携して地域振興のための活動ができた。	・各種ボランティア活動や、AOHSでの活動をより宣伝する場を作りたい。

《学校運営領域》

対象	対応重点項目	評価項目	評価の観点	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策
学校運営	1 2	教職員のスキルアップへの取り組み	・教員一人ひとりが、研修・授業参観とそれに伴う意見交換を通して授業改善を行い、分かる授業を目指すとともに、新しい教育に向けてのスキルアップを図る取り組みができたか。	・特別支援教育や人権教育についての職員研修や、他校の視察報告会を実施し、教員としての資質向上に努めた。 ・今年度導入された電子黒板を積極的に活用し、授業改善に向けた取り組みがなされた。また、教員相互の授業参観も日常的に行われるようになった。	・新学習指導要領を意識したカリキュラム・マネジメントの推進をする。 ・職員間の情報交換の場をつくり、お互いに切磋琢磨する雰囲気を構築する。
	4	地域・保護者とのコミュニケーション	・本校の活動について、インターネット等を通じて地域や保護者に向けての広報および情報発信を行うことができたか。	・保護者へのメール配信は12月までで約20回ほど配信できた。一方、本校サイトでの情報発信は不十分であり、一層の努力が必要である。 ・公開授業の案内を近隣高校・中学に行い、特に多くの中学生に参観していただくことができた(10/6 34名、11/27 56名、12/19～26 33名)。	・公開授業の案内を引き続き近隣高校・中学に行うとともに、地域住民へのPR活動を活発にしたい。
	1 2 4	安全管理体制の確立と徹底	・日常的な安全管理に心がけるとともに、生徒、職員の意識向上を促すことができたか。	・生徒非通知の防災訓練を実施し、避難後に1時限使って防災の学習活動を行った。避難時の緊張感は希薄さを感じたが、市町村作成のハザードマップを見ながら通学路の危険箇所を確認する際には真剣な様子がうかがえた。 ・災害時の対応をまとめたものを来年度の生徒手帳に記載するよう、原稿を作成できた。	・防災訓練をより実践的なものにするため、例えばけが人の救助訓練を行うなど一層の工夫をしたい。